

原発 ゼロ にむかって

2012年3月8日 No.13

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

3.3 原発さよなら デモ@三郷

3月3日(土)埼玉県三郷市で「原発さよならデモ」が行われ健和病院・健和友の会から20人が参加しました(写真右)。

このデモは、特定の政党や団体としてではなく、ツイッターでの個人の呼びかけをきっかけに集まって開催されたもので、埼玉では大宮、



川越につづいて3回目の取り組みです。今回はホットスポットの三郷ということで県内各地からこれまで最高の900人以上が参加し、三郷中央駅から三郷駅を経て早稲田公園までの約3.6Kmを行進しました。

参加者は「原発いらない」「放射能いらない」「子どもを守ろう」「いのちを守ろう」と声をあげ、私たちは全日本民医連が作った「なくせ原発」「いのちと原発は共存できません」の横断幕をもって行進しました。

全市的規模の放射線測定運動を市民に訴える

行進終了後の集会では、「放射線から子どもたちを守る三郷連絡会」事務局長の荒木浩二さん(アカシア会常務)がこの間の取り組みの報告を行い、「三郷の子どもたちにも尿からセシウムが検出されるなど内部被曝の問題が懸念されており、一刻も早い除染処置が求められている」「そのために改めて全市的規模の放射線測定運動を市民に訴えている」と現在の取り組みの報告を行いました。最後に、主催者が「次は4月14日に春日部市でデモを行う予定」があり、さらに多くの参加者で成功させようと訴えました。(みさと健和病院組織課 三好澄生)

「思想超え 党派を超えて柔らかな チューニングよ 永久(とわ)にと祈る」

ふだんの集会には見かける団体旗はいっさい無し。参加者はtwitterや口コミで自主的に集まりました。ソーラーパネルを背負いハンドマイクの電源にする青年(写真右)、百人一首をもじったパネルを並べて、脱原発を呼びかける市民団体、珍妙な着ぐるみをみにまとった人、子どもから高齢者まで、



保守から真っ赤かまで幅広い人々が集まった催しとなりました。

この日は、前後の寒い日の切れ目の中の暖かな1日でした。パレードも、日本の「デモ起こし隊としての役割を」という自覚で、いままで放射線量測定運動など、努力を積み重ねてきたとりくみが次の飛躍の結節点になったのでした。こうした、やわらかな同調(チューニング)が全国に広がれば、「脱原発」は私たちがいきているうちに実現すると確信したのでした。(みさと協立病院事務長 大葉清隆)



破顔〜みさと協立病院女子部数名